

図 23 a



図 23 b

印刷

キヤノンの場合

皆さんの家庭にあるプリンターで印刷をしてみましょう。まず、キヤノンのプリンターの場合です。「ファイル」タブをクリックしてメニューから図 23a のように「印刷」を選び「プリンター」からキヤノンのプリンターを選びます。図 23b ではオフラインになっていますね。これがオンラインになるようにプリンターの電源を入れておきます。図 23b の「プリンターのプロパティ（詳細の意味）」から図 23c のプロパティのダイアログを出します。「印刷前にプレビューを表示」にチェックを入れ、「ページ設定」のタブをクリックします。

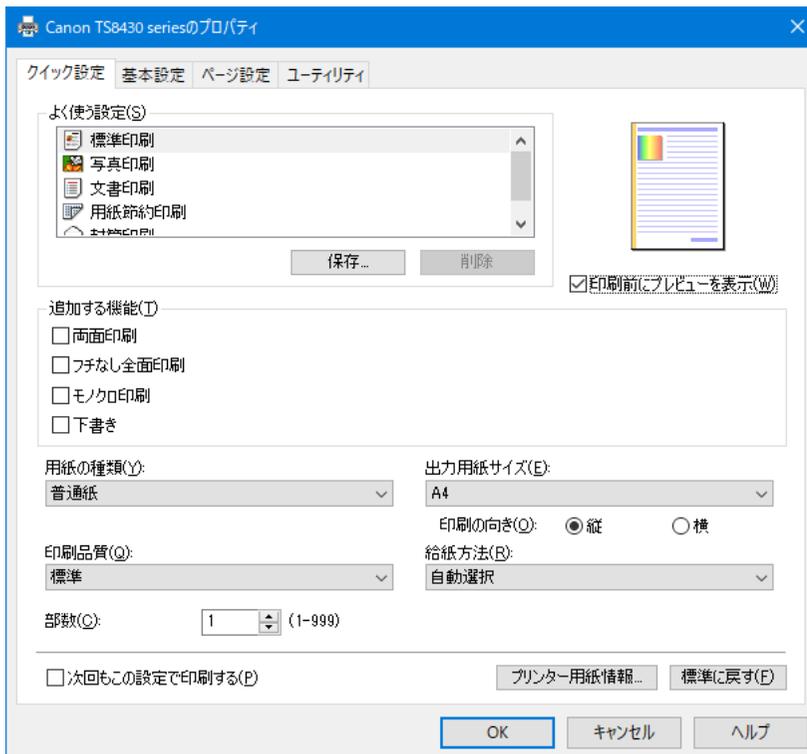


図 23 c

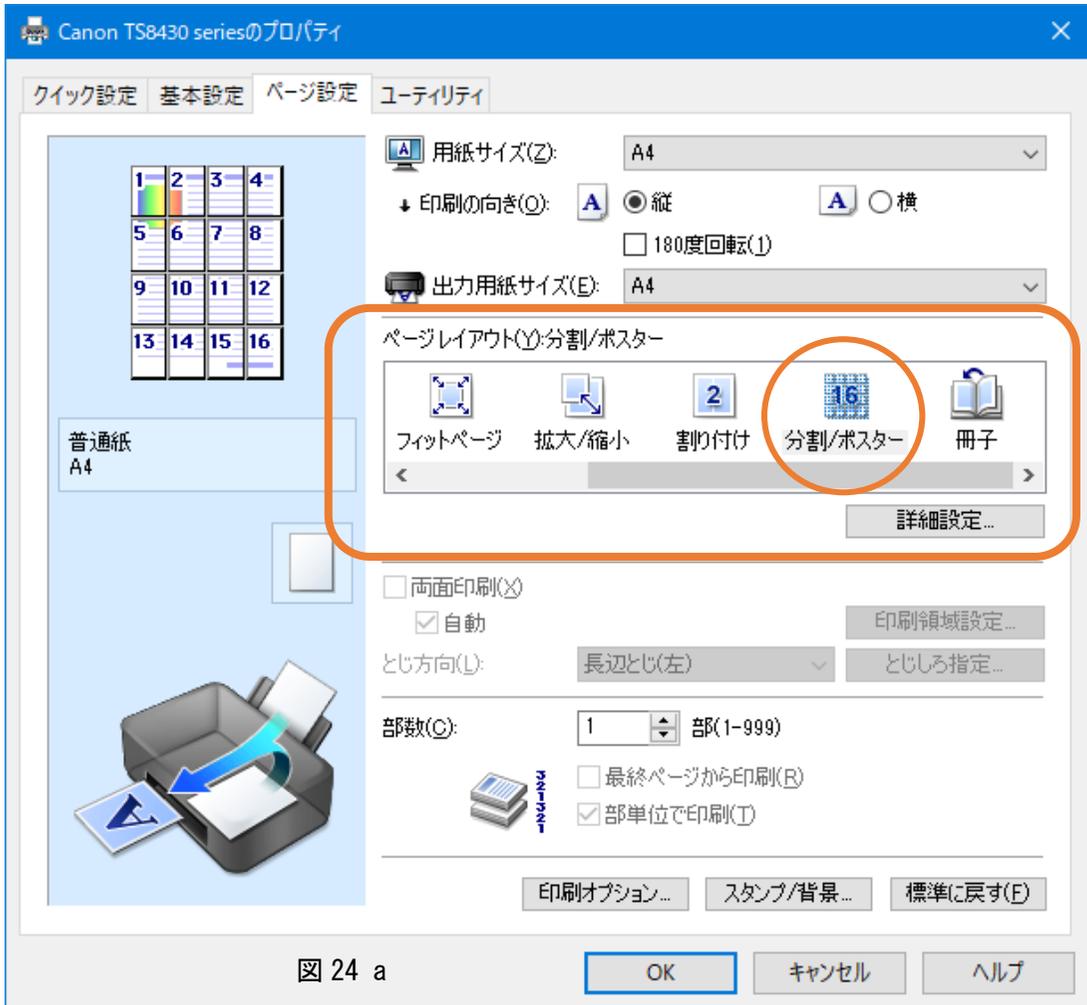


図 24 a

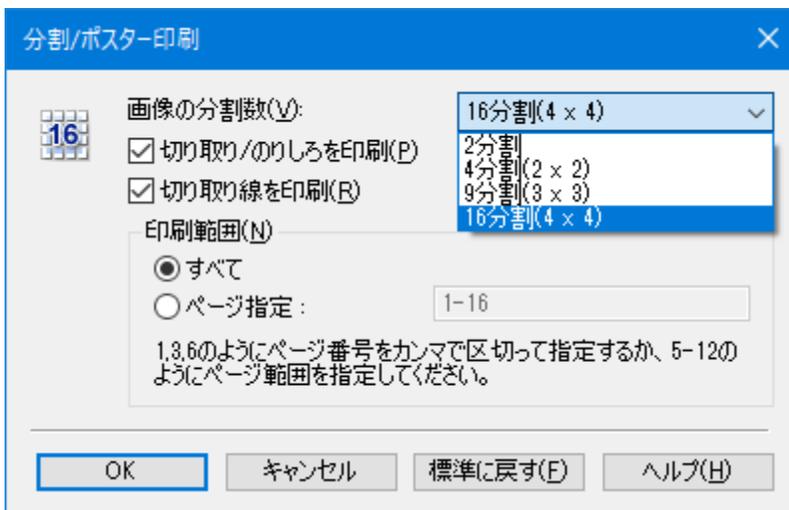


図 24 a の「ページ設定」の「ページレイアウト」から「分割/ポスター」を選択し「詳細設定」をクリックします。図 24 b のようなダイアログが出てきますのでここで「16分割(4×4)」を選び「切り取り/のりしろ」印刷「切り取り線印刷」にもチェックを入れて「印刷範囲」を「すべて」にして OK をクリックします。

図 24 b

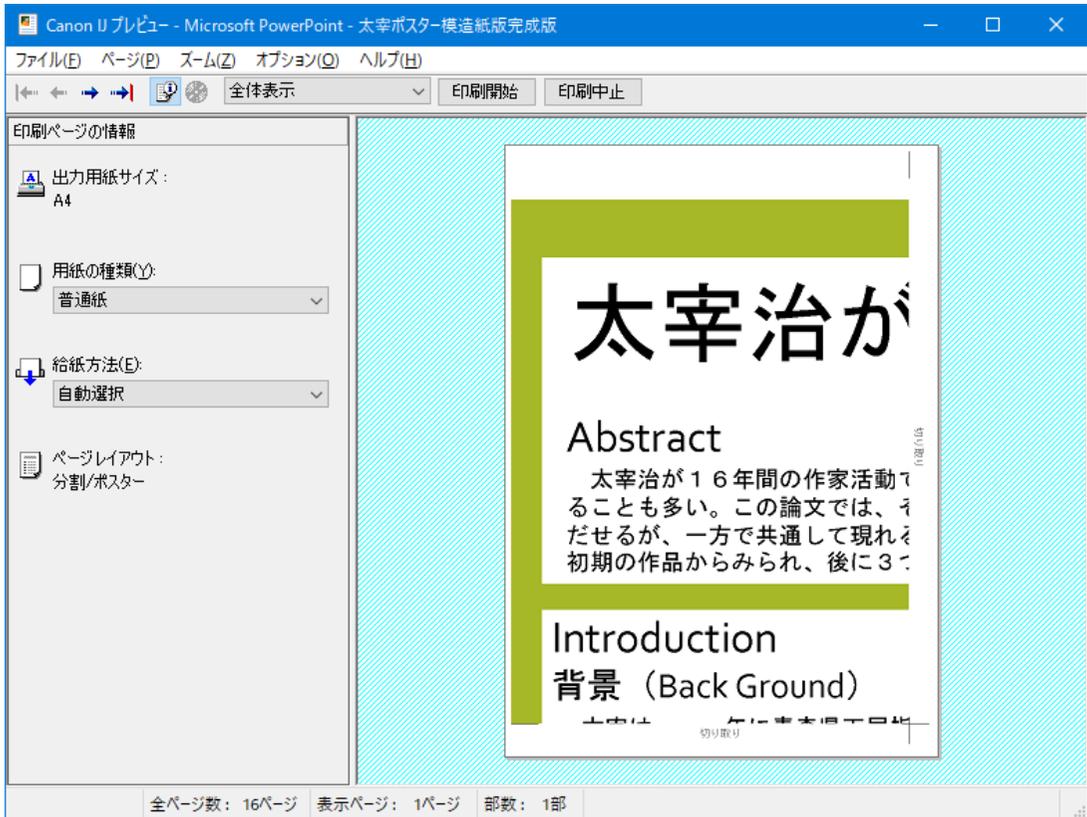


図 24c プレビューを印刷前に見れるようにしておく、失敗がない。

模造紙に貼る

16 枚の A4 判の部品を印刷したら、模造紙の罫線に合わせて貼っていきます。およそ横はびったり罫線の幅に収まりますが、縦はちょっとずれてしまいます。これは仕方ありません。1 枚 1 枚を模造紙に貼るときにスティックのりで紙の 4 つの辺と角の縁にしっかりと糊がつくようにして貼っていきましょう。後で、模造紙に貼った状態で丸めてケースに入れると、どうしても端の方がはがれやすくなってしまいます。そのときは、両面テープなどの補強材でポスターセッションの本番に合わせて補修しましょう。スティックのりは、紙の裏面に全面にきれいに塗ってしまうのがよいようです。ポスターを丸めて貼った部分が剥がれやすくなるのが嫌な人は、学校で貼り付けることをお勧めします。前日までに仕上げるとしわのない綺麗なポスターが仕上がります。

キヤノンプリンターの場合

<h2>太宰治が16年間変えなかったもの</h2> <p>Abstract 宮崎県立宮崎高等学校 3年10組32番 宮西あさひ</p>	
<p>太宰治が16年間の作家活動で発表した一連の作品は、一般に3つの時期に分けられる。現在、この3つの時期に分けて作品の文体がどのように変化したかを比較検討した。結果として、3つの時期の文体はそれぞれ異なる特徴をもつことが明らかになった。これは、太宰治が16年間の作家活動で発表した一連の作品は、一般に3つの時期に分けられる作家活動期間がある。</p>	<p>時期に分けられる。現在、この3つの時期に分けて作品の文体がどのように変化したかを比較検討した。結果として、3つの時期の文体はそれぞれ異なる特徴をもつことが明らかになった。これは、太宰治が16年間の作家活動で発表した一連の作品は、一般に3つの時期に分けられる作家活動期間がある。</p>
<p>Introduction 背景 (Back Ground)</p> <p>太宰治は、1905年1月19日に生まれる。父は太宰治の父で、母は太宰治の母である。1923年、23歳のときに東京府立第一高等学校を卒業し、1924年に『魚屋日記』をはじめとした小説を書き始める。1925年から1927年まで、東京府立第一高等学校に在学し、『魚屋日記』をはじめとした小説を書き始める。1928年から1930年まで、東京府立第一高等学校に在学し、『魚屋日記』をはじめとした小説を書き始める。</p>	<p>Results 1. 一文の文字数の比較結果</p> <p>以下のグラフのように、第一期～第三期に共通する特徴は、70文字以上の文が存在することである。</p>
<p>Method 文体の統計的な分析方法</p> <p>1. 一文の長さの比較</p> <p>1期～3期のそれぞれの作品群から50の文を無作為に選び、その長さの分布をヒストグラムに表す。下の図は、佐野由『魚の飼育を食べたい』の中から、50の文を無作為に選び、一文の長さの分布をヒストグラムとして表したものである。</p>	<p>第二期 1928年～1930年</p> <p>「走れメロス」他 太宰治</p>
<p>研究の目的 (仮説・疑問)</p> <p>太宰治が16年間の作家活動で発表した一連の作品は、一般に3つの時期に分けられるといわれる。この3つの時期に分けて、その文体がどのように変化したかを比較検討し、その特徴を明らかにすることにした。</p>	<p>第三期 1931年～1932年</p> <p>「人間失格」太宰治</p>
<p>2. 句読点の数の比較</p> <p>1期～3期のそれぞれの作品群から無作為に50ページを選び、そのページの句読点の数の出現率をヒストグラムに表す。</p>	<p>Results 2. 句読点の数の比較結果</p> <p>この第一期～第三期に共通して、1ページあたり50～60個の句読点の出現率が高く、他の作者に比べてもかなり高い。</p>
<p>References</p> <p>太宰治 (2005) 『走れメロス』新潮文庫 太宰治 (2002) 『人間失格』角川文庫 佐野由 (2017) 『魚の飼育を食べたい』双葉文庫</p>	<p>Discussion&Conclusions</p> <p>太宰治作品の文体について考察</p> <p>分けられていること、文体の異なる。太宰治は一文の長さを変化させる文体を初期に生み出し、その後、徐々に多量な句読点の多用が彼の文体の特徴となっている。</p> <p>「走れメロス」の105文字の長文は、メロスの情報伝達を目的として書かれた。太宰治は作家活動を始めた23歳から、長文を使用する意味について自覚があり、自分の文体を意図的に構築させ、最後の作品「人間失格」にたどり着いた。</p> <p>これは、メロスの情報伝達を目的として書かれた。一人の人間の苦悶の情を伝えている。太宰治は、長文を使用する意味について自覚があり、自分の文体を意図的に構築させ、最後の作品「人間失格」にたどり着いた。</p>

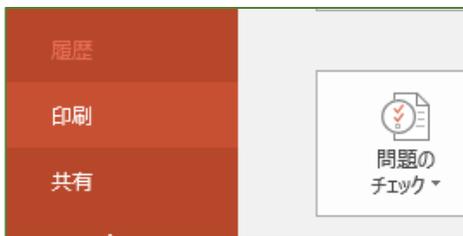


図 25 a



図 25 b

印刷

エプソンの場合

皆さんの家庭にあるプリンターで印刷を試みましょう。エプソンのプリンターの場合です。「ファイル」タブをクリックしてメニューから図 25 a のように「印刷」を選び「プリンター」からエプソンのプリンターを選びます。図 25 b ではオフラインになっていますね。これがオンラインになるようにプリンターの電源を入れておきます。図 25 b の「プリンターのプロパティ（詳細の意味）」から図 25 c のプロパティのダイアログを出します。「印刷前にプレビューを表示」にチェックを入れ、「ページ設定」のタブをクリックします。

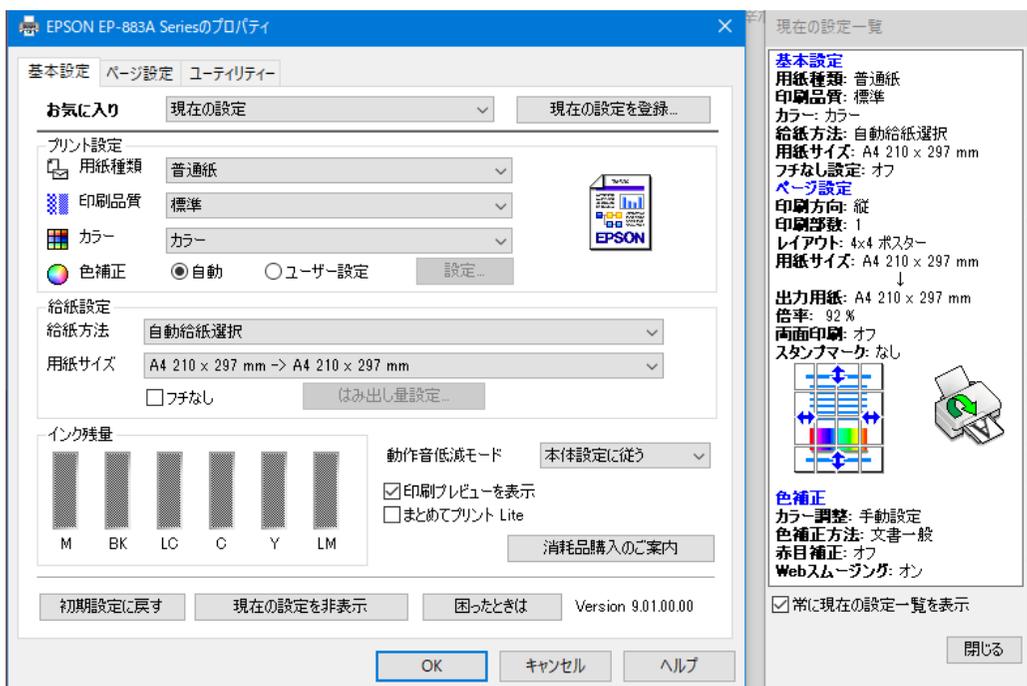


図 25 c

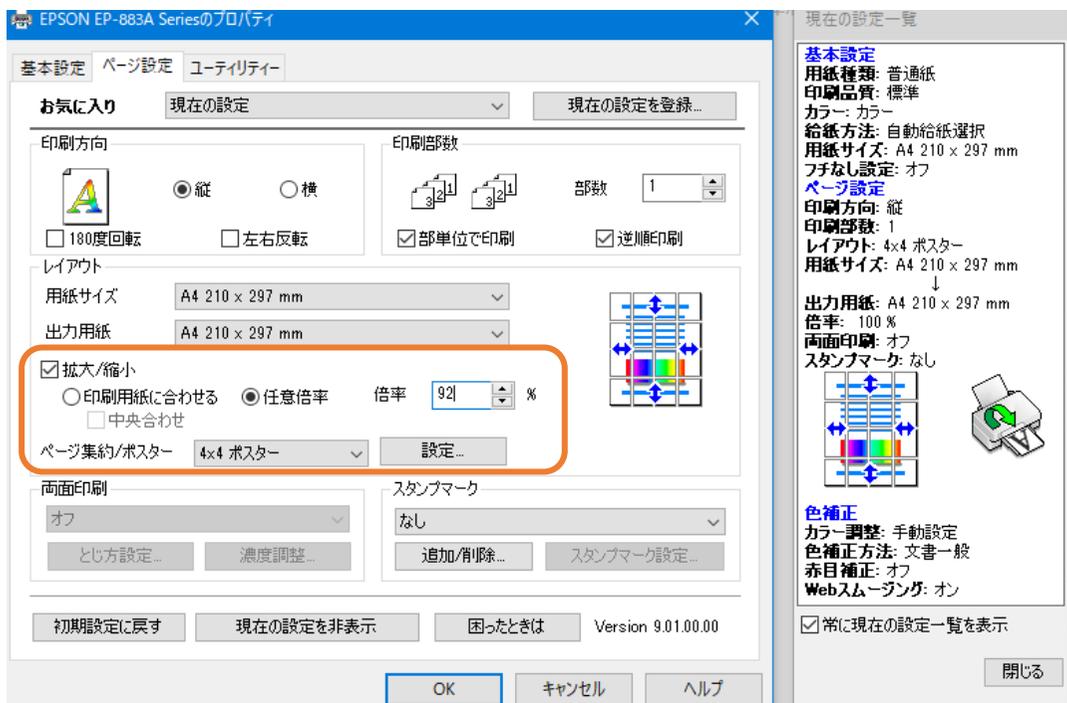


図 26 a

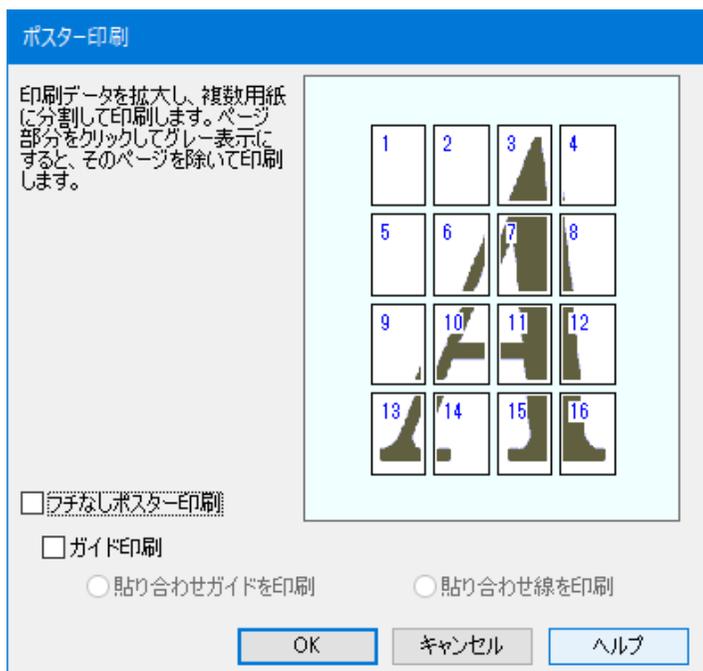


図 26 b

図 24 a の「ページ設定」の「拡大／縮小」にチェックを入れて「任意倍率」を選びます。ここで倍率を

倍率 92%

とします。また、「ページ集約／ポスター」から「4×4 ポスター」を選び「設定」をクリックします。図 26 b のようなダイアログが出てきますので、ここで、「ガイド印刷」はその分サイズが小さくなるためチェックしません。OK を押しましょう。



図 27 プレビューを印刷前に見れるようにしておくと、失敗がない。

模造紙に貼る

16枚のA4判の部品を印刷したら、模造紙の罫線に合わせて貼っていきます。およそ横はぴったり罫線の幅に収まりますが、縦はちょっとずれてしまいます。これは仕方ありません。1枚1枚を模造紙に貼るときにスティックのりで紙の4つの辺と角の縁にしっかり糊がつくようにして貼っていきましょう。後で、模造紙に貼った状態で丸めてケースに入れると、どうしても端の方がはがれやすくなってしまいます。そのときは、両面テープなどの補強材でポスターセッションの本番に合わせて補修しましょう。スティックのりは、紙の裏面に全面にきれいに塗ってしまうのがよいようです。ポスターを丸めて貼った部分が剥がれやすくなるのが嫌な人は、学校で貼り付けることをお勧めします。前日までに仕上げるとしわのない綺麗なポスターが仕上がります。

エプソンプリンターの場合

太宰治が16年間変えなかったもの

Abstract

太宰治が16年間の作家活動で用いた一連の作品は、一般に3つの時期に分けられる。現在、この3分類に分けて比較検討した。結果として、3つの時期の特徴は確かに10文字以上の長文が典型的に存在している点である。この3つに分類される作家活動期間とは関係なく、太宰治が一貫した表現の形式を追求していた可能性がある。

宮崎県立宮崎西高等学校 3年10組32番 宮西あさひ

Introduction

背景 (Back Ground)

太宰治は、1909年に青森県下郷村に生まれた。21歳のときに東京帝国大学文学部を退学し、1931年から1937年まで『乱歩伝』をはじめとする十五の短編を『花をよんで』としてまとめた。『花をよんで』は『乱歩伝』(『新編国語便覧』)と併記されている。第二期は1939年から1945年。この期間の代表作として『走れメロス』『東京八番』など目録が収められた加藤集『走れメロス』(『新編国語便覧』)がある。この第二期は、『新編国語便覧』(『新編国語便覧』)に『人間失格』と『桜痴』は太宰治最後の作品となった。この1945年に太宰治は、『山崎宮本と薬物を飲んで玉川上水に身を投じ、命を絶った』(『新編国語便覧』)と記されている。

研究の目的 (仮説・疑問)

太宰治が16年間の作家活動で用いた一連の作品は、一般に3つの時期に分けられるといわれる。しかし、太宰治の文体もそれと関係なく変遷しているのだろうか。その特徴を調べていくことにした。

Results 1. 一文の文字数の比較結果

以下のグラフのように、第一期～第三期に共通する特徴は、70文字以上の文が存在することである。

Method 文体の統計的な分析方法

1. 一文の長さの比較

1期～3期のそれぞれの作品群から50の文を無作為に選び、文の長さを調べた。下の棒グラフに示すように、3期のうち、1期の文の長さが最も長い傾向にある。また、3期の文の長さが最も短い傾向にある。50の文の長さを比較し、一文の長さの出現率をヒストグラムとして表したものである。

2. 句読点の数の比較

1期～3期のそれぞれの作品群から無作為に50のページを選び、そのページの句読点の出現率をヒストグラムに表す。

Results 2. 句読点の数の比較結果

この第一期～第三期に共通して、1ページあたり50～60個の句読点の出現率が高く、他の作者に比べてもかなり高い。

Discussion&Conclusions

太宰治作品の文体についての考察。太宰治の16年間の作家活動が一般的に第一期から第三期までに分類されていること、文体の変遷とは関係なく、太宰治は一文の長さを変化させたり、句読点を多用する傾向を初期に示み出し、その後変更された。10文字以上の長文と句読点の多さが、この文体の特徴となっている。『走れメロス』の100文字の長文は、メロスが難題に直面する場面を表現し、『人間失格』では、一人の人間の苦しい場を生きみることになる。太宰治は作家活動を終った22歳の頃から、長文を使用する意味について自覚があり、自分の文体を意図的に発展させ、最後の作品『人間失格』にたどり着いたと見られる。

References

太宰治 (2005) 『走れメロス』 新潮文庫
 太宰治 (2012) 『文壇大権』 新潮文庫
 佐野 勇 (2017) 『君の編輯を食べて』 双葉文庫

加藤 隆 (編) (1995) 『新編国語便覧』 漢語堂書店
 豊田 隆雄 (2017) 『Focus Gold 数字1』 新編国語便覧
 山内 博史 (2015) 『太宰治の『晩年』』 文芸春秋
 太宰治 (2005) 『晩年』 新潮文庫

20

参考資料

ポスターの下書き原稿

Title

太宰治が16年間変えなかったもの

宮崎県立宮崎西高等学校 3年10組32番 宮西あさひ

Abstract

太宰治が16年間の作家活動で残した一連の作品は、一般に3つの時期に分類される。現在、この3分類に沿って作品の特徴が語られることも多い。この論文では、それぞれの時期の文体の特徴を統計的手法で比較検討した。結果として、3つの時期の特徴は確かに見いだせるが、一方で共通して現れる特徴も見つかった。それは、一文が80文字以上の長文が意図的に含まれている点である。この特徴は初期の作品からみられ、後に3つに分類される作家活動期間とは関係なく、太宰治が一貫した表現の形式を追及していた可能性がある。

The work of the great author Dazai Osamu has spanned over sixteen years. His work can generally be classified into three periods. Each period is distinct in its literary style. In this thesis, I have compared the different stylistic features of his writing using a statistical method. I used this method to identify and elaborate on the features of each period of his collective works such as sentence length and punctuation. My findings conclude that there are common characteristics regardless of the period which sets Dazai apart from other popular author. One example is his tendency toward long sentences commonly containing over 80 characters. We can see this feature even in his early stage, evidence that Dazai Osamu pursued this consistent expressive form, irrespective of his three terms as an author.

Introduction

背景 (Back Ground)

太宰は、1909年に青森県下屈指の大地主、金木村の津島家に生まれた。23歳のときに左翼非合法運動から転向し、1933年「魚服記」をはじめとした小説を書き始める。

第一期 1933年から1937年で、文庫本「晩年」(新潮文庫)には「魚服記」をはじめとする十五の小品が集まられている。この第一期は「死を意識した遺書としての小説群」(常用国語便覧より)と呼ばれている。

第二期 1938年から1945年。この間の代表作品として「走れメロス」「東京八景」など8編が収められた短編集「走れメロス」(新潮文庫)がある。この第二期は、「生命の充実を得て」「明るく透明感のある作品群を残」(常用国語便覧)した時期といわれている。

第三期 1946年からであり「人間失格」(角川文庫)と「桜桃」は太宰治最後の作品となった。この1948年に太宰は、「山崎富栄と薬物を飲んで玉川上水に身を投じ、命を絶った」(常用国語便覧より)。39歳であった。

研究の目的 (仮説・疑問)

太宰治が16年間の作家活動で残した一連の作品は、一般に3つの時期に分類されるといわれる。しかし、太宰治の文体もそれと同様に変化しているのだろうか。その点に疑問を持った私は、その特徴を探っていくことにした。

Method

文体の統計的な分析方法

1. 一文の長さの比較

1期～3期のそれぞれの作品群から50の文を無作為に選び、文の長さを調べヒストグラムに表す。下の例は、住野よる「君の臍臓を食べたい」の中から、50の文を無作為に選び、一文の長さの出現率をヒストグラムとして表したものである。

2. 句読点の数の比較

1期～3期のそれぞれの作品群から無作為に10ページを選び、そのページの句読点の数の出現率をヒストグラムに表す。

Results

1. 一文の文字数の比較結果

以下のグラフのように、第一期～第三期に共通する特徴は、70文字以上の文が存在することである。

第一期 1933年～1937年

第二期 1938年～1945年

第三期 1946年～1948年

2. 句読点の数の比較結果

この第一期～第三期に共通して、1ページ当たり50～60個の句読点の出現率が高く、他の作者に比してもかなり高い。

Discussion

太宰治作品の文体についての考察

太宰治の16年間の作家活動が一般的に第一期から第三期までに分けられていることと、文体の変化とは区別して考えるべきである。太宰治は一文の長さを変化させたり、句読点を多用する詩文の文体を初期に生み出し、その後発展させていったと考えられる。特に、80文字以上の長文と句読点の多さが彼の文体の特徴となっている。

「走れメロス」の105文字の長文は、メロスが精根尽き果てる様子を表現し、「人間失格」では、一人の人間の告白の場を生み出すことになる。

太宰治は作家活動を始めた23歳の頃から、長文を使用する意味について自覚があり、自分の文体を意識的に発展させ、最後の作品「人間失格」にたどり着いたと見るべきだろう。

References 参考文献

- 加藤道理（編）（1995）「常用国語便覧」浜島書店
- 豊田敏盟他（2017）「Focus Gold 数学I+A」新興出版社啓林館
- 山内祥史（2015）「太宰治の『晩年』」秀明出版会
- 太宰治（2005）「晩年」新潮文庫
- 太宰治（2005）「走れメロス」新潮文庫
- 太宰治（2012）「人間失格」角川文庫
- 住野よる（2017）「君の睥臓を食べたい」双葉文庫